

メタンハイドレート開発計画の促進

政策提言先 資源エネルギー庁

政策提言の要旨

メタンハイドレートの実用化に向けた取り組みを加速化させるとともに、メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアムにおいて、土佐沖でのメタンハイドレートの賦存量などの詳細な調査を実施することにより、わが国のエネルギーの安全保障としての対応を図ることを提言します。

【政策提言の具体的内容】

- ① エネルギーの安全保障の対策としても有効であるメタンハイドレートの実用化に向けた取り組みを加速化していただきたい。
- ② メタンハイドレートが広く分布すると推定されている土佐沖での詳細な賦存量調査を行うために、まずは、土佐沖の詳細な海底地形調査を実施していただきたい。
また、土佐沖のように水深が深く、潮流が速いという過酷な条件下での産出技術を開発できるよう、土佐沖をフィールドとした掘削試験の実施をお願いしたい。
- ③ 土佐沖での詳細調査の活動拠点として高知新港を積極的に活用していただきたい。また、本県を商業化の際の陸揚げ基地と位置付けた開発計画を策定いただきたい。

【政策提言の理由】

- ① メタンハイドレート資源の開発は、現在、生産技術の実証等を目的としたフェーズ2へと移行され、本年3月には、世界初となる海洋産出試験に成功したところです。
メタンハイドレート開発計画は、平成30年度までに「商業化の実現に向けた技術の整備」を図るとされていますが、エネルギーの安全保障の観点からも、純粋国産のエネルギーとして期待されるメタンハイドレートの実用化を早期に実現する必要があります。
- ② 将来、商業化される際に、メタンハイドレートの賦存量調査の詳細なデータ等が存在することが有益であると考えられることから、商業化の目途が立ち次第直ちに採掘に着手できるよう、メタンハイドレートが広く分布すると推定されている土佐沖での詳細な賦存量を確認するために、まずは、詳細な海底地形調査を実施する必要があります。
また、日本近海に広く分布するメタンハイドレートを産出するためには、様々な条件下での産出技術を開発する必要があります。このため、深度が深く、黒潮による潮流が速い土佐沖をフィールドにした掘削試験についても実施する必要があると考えます。
- ③ 高知新港は太平洋に面しており、「地球深部探査船ちきゅう」の入港も可能です。さらに、本県には、高知大学と海洋研究開発機構が共同運営する高知海洋コアセンターがあり、調査や開発研究において産学官の連携が期待できますことから、調査船の活動拠点として高知新港を積極的に利用していただくことが有効であると考えます。
また、高知新港は広い後背地もあり、高速道路や空港へのアクセスも良いことなど、土佐沖のメタンハイドレートの陸揚げの基地として有利な条件を有していますことから、高知県を位置付けた開発計画を策定し、取り組みを推進することが効果的であると考えます。

【高知県担当課室】 林業振興・環境部 新エネルギー推進課